Course number	U-LAS04 10020 OJ47　U-LAS04 10020 OJ46　U-LAS04 10020 OJ45 U-LAS04 10020 OJ17

Course title (and course title in English)	統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学　HC02 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p2) :Communication Science for Questioning Unnoticed Norms HC02	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,YOKOMORI DAISUKE Graduate School of Medicine Professor,KATAOKA HITOMI Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,KAKIHARA TAKESHI Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,TSUKAHARA NOBUYUKI Graduate School of Asian and African Area Studies Professor,TAKADA AKIRA Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,KANAMARU TOSHIYUKI Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,IZUMI EMI Agency for Student Support and Disability Resources Associate Professor,FURUKAWA HIROYUKI Graduate School of Informatics Assistant Professor,INOUE KOJI

Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Pedagogy, Psychology and Sociology(Foundations)

Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	4

Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester

Days and periods	Mon.5・Thu.5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

友人や家族との何気ないおしゃべり、お店や公共施設での買い物や手続き、SNSでのメッセージ交換。私たちの毎日は、無数のコミュニケーションの積み重ねによって成り立っています。「もっとうまく話せたら」「どうして伝わらないんだろう」――そんな悩みや疑問を抱いたことが、誰しも一度はあるはずです。コミュニケーションは、あまりに身近で「当たり前」の存在であるがために、それが学術研究の対象になるということは想像しにくいかもしれません。しかし、コミュニケーションは取るに足らない些末な事象では決してなく、人間社会の根幹を成すインフラとして、文系・理系の区分を越えて幅広い専門分野からの研究が長く積み重ねられている、重要な研究主題なのです。
この統合型複合科目は、そんな日常の「当たり前」を科学的に問い直すための知的探究です。「講義」（全14回）と複数の「少人数演習」（全14回）の組み合わせから構成されます。

木曜5限に実施される「講義」では、受講生が一堂に会して、各分野の専門家による授業を受けます。「講義」という名前ですが、授業内では教員からの一方向的なレクチャーだけでなくグループディスカッションや実習的な活動も行います。また、各講義には別の教員がコメントする時間を設け、講義内容を多角的な視点から深めていきます。

「少人数演習」は、それぞれ異なる曜日時限に実施され、ディスカッション・文献講読・データ分析実習など、各教員が設定した授業活動に参加します。少人数演習の内容については、下記の「授

Continue to 統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学　HC02(2)↓↓↓

業計画と内容」をご覧ください。

○統合型複合科目分類　【文・理】
　主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題については理系分野の要素が強いと考えられるもの

[Course objectives]

本講義の履修を通じて、受講生は以下のことができるようになります。
①コミュニケーションへの多角的な学術的視野の獲得
■コミュニケーションに関する複数の専門分野（言語学、心理学、情報学、医学、社会学など）の主要な理論や知見を理解し、説明できる。
■ひとつのコミュニケーション事象に対して、特定の視点だけでなく、複数の学問的立場から複眼的に捉え、議論できる。
②コミュニケーションに関する分析スキルの習得と実践
■実際のコミュニケーションデータ（会話の録音・録画、テキストデータ、自己観察記録など）を収集し、適切な学術的手法を用いて分析できる。
■「当たり前」とされる日常のやりとりや規範を、科学的な根拠に基づいて批判的に問い直すことができる。
③自己の実践と社会課題への応用
■自身の日常的なコミュニケーションを客観的に観察・分析し、その特徴や課題を言語化できる。
■授業で得た洞察を活かし、他者との関わり合いや社会的なコミュニケーション課題に対して、より深い理解と実践的な見通しを持つことができる。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

◆講義　木曜5限　教育院棟講義室31（※第2-3回のみ医学部構内の「基礎医学記念講堂」にて実施です。詳細は第1回授業にてお伝えします。）
第1回(4/9)　イントロダクション：コミュニケーションの「当たり前」とは？
第2回(4/16)［コミュニケーション学］コミュニケーションとは何か（岩隈＋コメント横森）
第3回(4/23)［コミュニケーション学］（続）コミュニケーションとは何か：ヘルスコミュニケーションを題材に（岩隈＋コメント片岡）
第4回(4/30)［情報学］会話ロボットERICAと出会う：AIから考える人間の対話（井上＋コメント金丸）
第5回(5/7)［情報学］AIから考えるターン交替（井上＋コメント横森）
第6回(5/14)［情報学］AIから考える傾聴（井上＋コメント古川）
第7回(5/21)［情報学］AIから考える笑いと感情（井上＋コメント高田）
第8回(5/28)［コーパス言語学］「英語ペラペラ」を問い直す（金丸&和泉＋コメント塚原）
第9回(6/4)［会話分析］「日常会話」を問い直す（横森＋コメント柿原）
第10回(6/11)［人類学］「一人前になること」を問い直す（高田＋コメント井上）
第11回(6/25)［臨床心理学］コミュニケーションと大学生の自己理解（古川＋コメント和泉）
第12回(7/2)［医学教育学］医療とケアのコミュニケーション（片岡＋コメント高田）
第13回(7/9)［社会言語学］コミュニケーションする権利と政策（塚原&柿原＋コメント和泉）
第14回(7/16)　総合討論
第15回(7/30)　フィードバック授業

Continue to 統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC02(3)↓↓↓

◆少人数演習
【B班：大学生のコミュニケーションを考える：自己理解に向けて（担当：古川裕之）月曜5限　共北12】
　大学生活や就職活動、さらにその先の社会人として生きていく中で、現代ではやたらと「コミュニケーションスキル」が求められます。「コミュ障」という言葉も広く知られるようになった現代は、コミュニケーション偏重時代と言えるかもしれません。では、「コミュニケーション」とは一体どのようなものなのでしょうか。「コミュニケーションスキル」と言った時には、上手に話せることや、相手と協調できることなどが重視されているように思われるかもしれません。しかし、話すのが苦手だったり、人と一緒に何かをするのが不得意な人もいるでしょう。その人たちは「コミュニケーションスキル」が「劣っている」とか「ない」と言ってしまって良いのでしょうか？「話すのが苦手」な人でも、相手や状況によってはうまく話せる時もあります。そのため、コミュニケーションについて考える際には、どういう時には話しやすいのか、というような自分自身への理解がまずは重要となります。この演習では様々なワークを行い、その時の自身の体験を振り返ります。それを通じて、「上手に話せるようになる」ことを目指すのではなく、コミュニケーションの基盤となる、自分自身についての理解を深めることを第一の目的とします。そして、コミュニケーションの個別性を理解し、よりよいコミュニケーションとはどのようなものかを考えることを第二の目的とします。具体的には以下の内容を予定しています。
　第1-2回：自己紹介の難しさを体験する、コミュニケーションを始めるためのアイスブレイクを体験する
　第3-4回：「きく」コツを学ぶ
　第5-6回：「伝える」コツを学ぶ
　第7-8回：自分を表現する、相手の表現を受け取るコツを学ぶ
　第9-11回：話し合うコツを学ぶ
　第12-13回：自分の考えを主張するコツを学ぶ
　第14回：かけひきのコツを学ぶ
　第15回：フィードバック

[Course requirements]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[Evaluation methods and policy]

・講義への取り組み（リアクションペーパー等）：50%
・少人数演習への取り組み（発表、実習、ディスカッション、小レポート等）：50%
※講義および少人数演習の成績評価の詳細は，それぞれの初回授業で説明する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業資料の要点を予習・復習する。それ以外の課題がある場合は、授業時に指示する。

[Other information (office hours, etc.)]

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」が「ISS」と略記されます。

Continue to 統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC02(4)↓↓↓

統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC02(4)

[Essential courses]